
基本構想

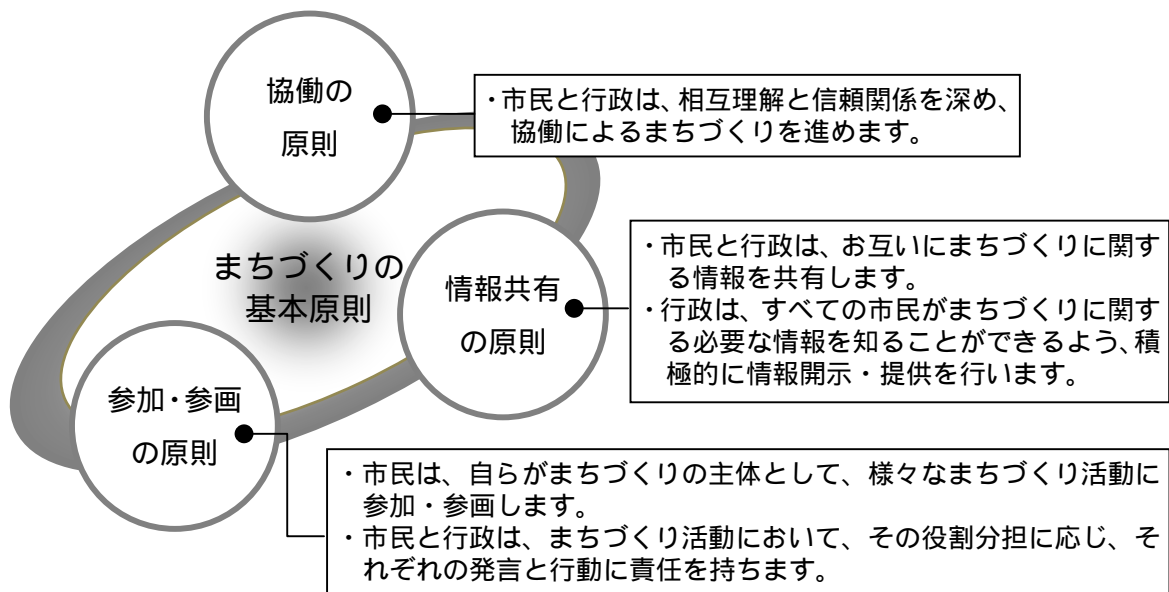
1 まちづくりの基本原則

木津川市は、木津川の流れややさしい里山に象徴される美しい自然環境の中で歴史や文化を育んできました。また、近年は、国家プロジェクトとして建設が進む関西文化学術研究都市を擁する魅力あるまちです。

木津川市のまちづくりは、先人が築き上げてきたこの素晴らしいまちにさらに磨きをかけるとともに、まちが抱える課題の解決を図り、個性豊かで活力に満ちた、夢のある地域社会をめざすものです。

それを実現するには、市民一人ひとりの人権が尊重され、豊かな創造性、知識、社会経験等を十分に活かしながら、市民と行政がともに力を出し合って様々な取り組みを進め、生活環境・公共空間の質的向上をめざす必要があります。

このような認識の下、「まちづくりの基本原則」を次のとおり定め、市民と行政がまちづくりの基本となる考え方を共有し、持続的・自律的發展に向けたまちづくりを進めます。



注 市民：市内に居住する個人、市内に通勤・通学する個人、市内に事業所を置く企業や各種団体等のこと。

協働：複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること。

参画：参加するだけでなく、方針の組み立てや決め事などにも責任を持って関わること。

2 まちの将来像

(1) 将来像

木津川市は、豊かな歴史・自然環境に恵まれているとともに、関西文化学術研究都市の中核として最先端の文化・科学を世界に発信する拠点です。これらの多様な個性を大切に、連携・交流を進めることで、さらに魅力ある“キラリ”と耀く新しいまちの実現が求められています。また、生活・雇用環境を充実し、市民が互いに助けあい、安心して生涯を過ごせる定住性の高い、いきいきとしたまちづくりが求められています。これらを踏まえ、木津川市の将来像を次のように定め、市民の幸せを追求するまちづくりを進めます。

歴史・文化や自然・環境を活かした美しいまちづくり

～愛着と誇りの持てるまちづくり～

- ・地域固有の特色ある地域資源を活かし、市民が誇りの持てる魅力あるまちづくり
- ・古代以来、都と関連性の深い地域として発展してきた歴史と文化を活かしたまちづくり
- ・木津川とその流域に形成された豊かな水と緑の自然・環境を活かしたまちづくり

知の集積を活かした新しいまちづくり

～新時代を創造するまちづくり～

- ・国際的な学術研究と産業、文化、生活が調和する「知の創造都市」をめざしたまちづくり
- ・知の集積の推進と活用をはじめとして、産業機能の導入・土地利用の推進、世界に開かれた学研都市の実現等をめざした魅力的なまちづくり
- ・世界に発信する学術・産業を創出するまちづくり

木津川市の将来像

水・緑・歴史が薫る文化創造都市

～ひとが耀き ともに創る 豊かな未来～

豊かな市民生活を実現するまちづくり

～安心して生涯を託せる
心豊かなまちづくり～

- ・安心・安全なまちづくり
- ・少子高齢化への対応をはじめとする保健・医療・福祉施策が充実したまちづくり
- ・安定的な生活基盤・雇用の確保をめざすまちづくり

市民が主人公のまちづくり

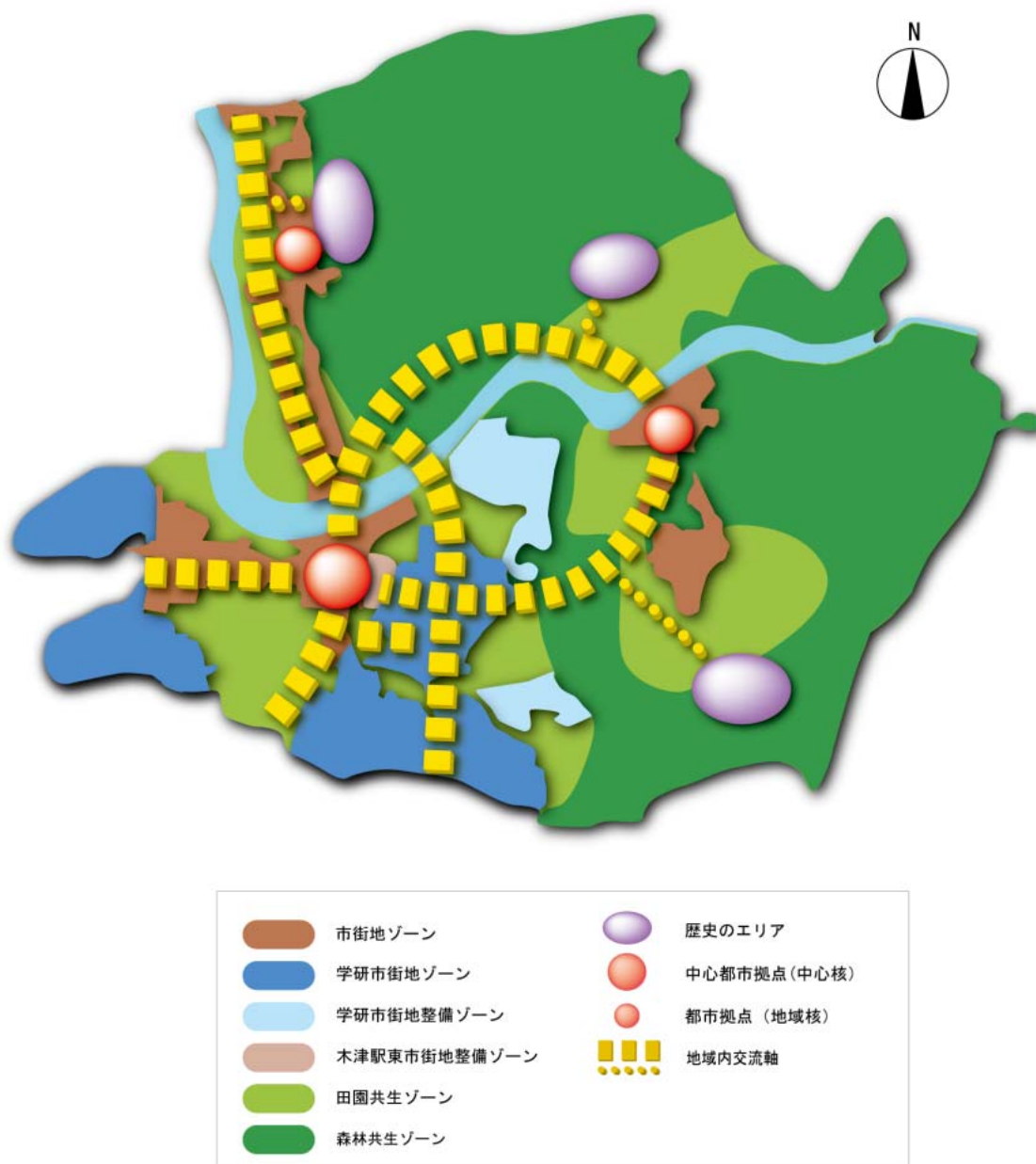
～みんなで創るまちづくり～

- ・多彩で多様な“人と地域文化”が交流するまちづくり
- ・市民の参画と協働によるまちづくり

(2) 将来都市構造

将来像の実現に向け、木津川市の将来の姿を示す都市構造を設定します。都市構造は、様々な都市的機能の中心的役割を果たす「拠点」、その地域にふさわしい土地利用の方向を示す「ゾーン」、特に有効活用すべき地域資源を有する「エリア」、並びにそれらを結びつける「軸」で構成されます。

都市構造図



都市構造図におけるゾーン、拠点の考え方

	地域内交流軸	各拠点等を結ぶ道路による連携・交流軸。地域の生活や歴史・文化に密着した交流を促進し、各拠点の結びつきを深めつつ、木津川市の一体性を高める。
ゾーン	市街地ゾーン	行政、商業、居住等様々な機能を有する市街地として位置づけるゾーン。都市拠点を中心に、利便性と質の高い市街地の形成を図る。
	学研市街地ゾーン	居住、文化学研究、商業、新たな産業などの機能を有する市街地として位置づけるゾーン。関西文化学術研究都市建設計画で位置づけられている各ゾーンの性格を明確にしつつ、特色ある市街地の形成を図る。
	学研市街地整備ゾーン	自然環境との共生*等に配慮し、学研都市機能を有する市街地として整備を検討するゾーン。
	木津駅東市街地整備ゾーン	中心市街地と学研都市（中央地区）との間に位置する地区として、都市的サービス機能等の整備を検討するゾーン。
	田園共生ゾーン	緑豊かな田園風景を大切にするゾーン。立地条件を活かした新たな技術による近郊農業の展開を図るとともに、快適な生活環境づくりにより、田園環境と定住環境の充実を図る。
	森林共生ゾーン	山林や丘陵地の緑のゾーン。自然環境を地域固有の貴重な緑の財産と捉え保全を図るほか、人と自然のふれあいの場としての活用を図る。
エリア	歴史のエリア	田園共生ゾーンや森林共生ゾーンにおいて社寺や史跡等の歴史的資源が点在するエリア。周囲の豊かな自然環境と調和した歴史的資源の保全を図るとともに、野外学習や環境学習、観光・レクリエーション等の場としての活用を図る。
拠点	中心都市拠点（中心核）	行政、商業、医療・福祉等多様な都市機能が集積する拠点。木津川市のみならず南山城地域も含めた地域の中心核として位置づけ、質の高い都市的サービスを提供する拠点の形成を図る。
	都市拠点（地域核）	住民の生活に密着した都市機能が集積するゾーン。住民のニーズに対応した都市機能の集積を図る。

(3) 人口・世帯数の見通し

予測人口と将来人口

全国的に人口減少が懸念される中、木津川市の人口は、平成12年(国勢調査) 58,809人、平成17年(国勢調査) 63,649人、平成19年度末(住民基本台帳) 67,233人と増加傾向にあります。

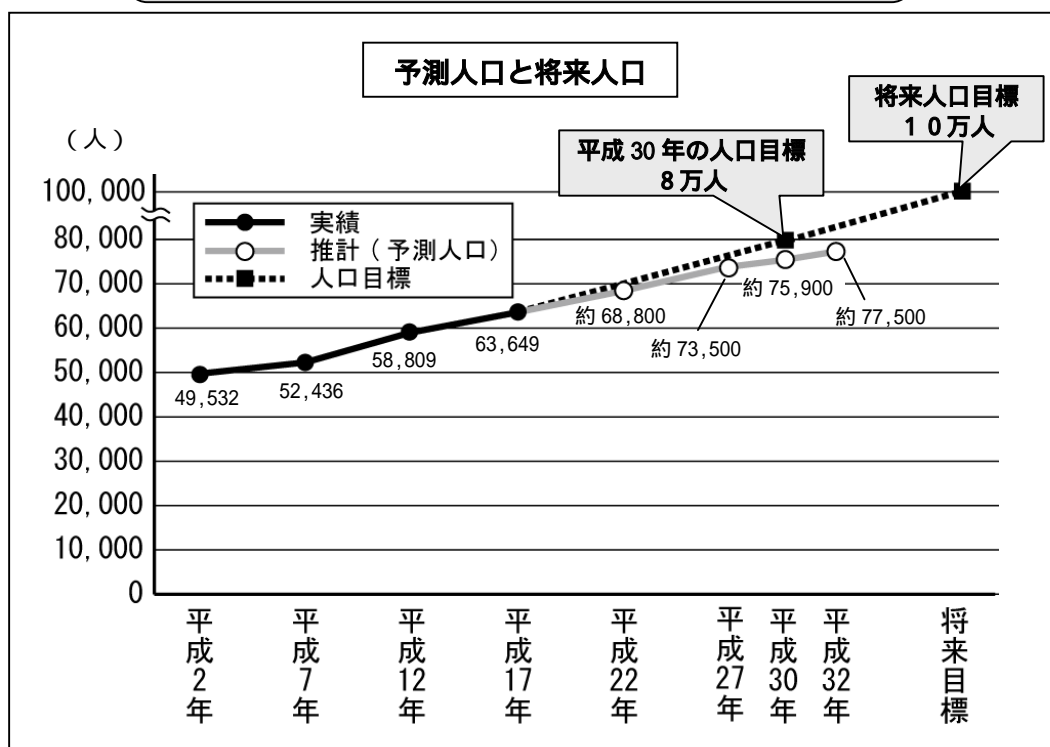
平成12年及び平成17年の国勢調査に基づき社会移動すう勢型人口推計^{注1}により将来人口を推計しますと、平成27年約73,500人、平成32年に約77,500人になる見通しで、目標年次である平成30年には、約75,900人になることが予測されます。^{注2}

まちづくりの将来像として掲げる「水・緑・歴史が薫る文化創造都市」をめざす上で人口規模は、まちの活力や市民生活環境に関わるものです。

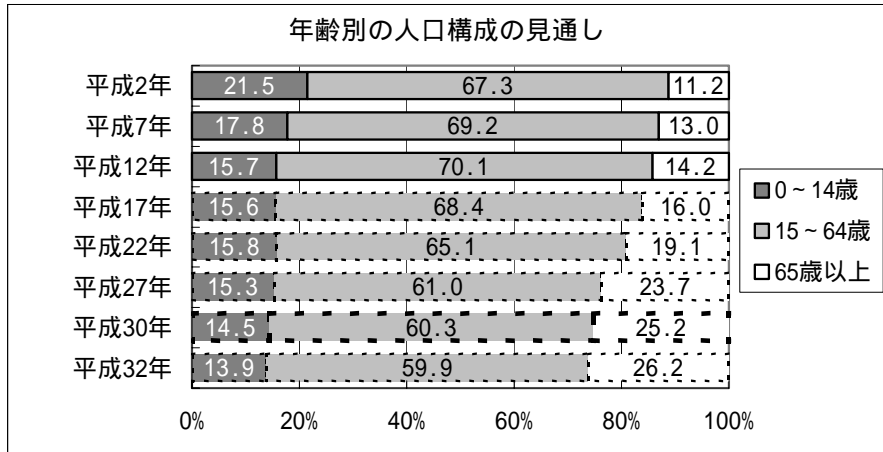
これまで、木津町、加茂町、山城町は独自のまちづくりを進めてきました。

合併による最先端の学研都市機能と自然・歴史・文化等の融合により、さらに魅力ある関西文化学術研究都市の中核都市として活力あるまちづくりを積極的に進めることにより、予測人口を上回る効果が期待できます。このことから、本計画の目標年次である平成30年の人口目標を「8万人」と定め、その後において、「10万人都市」の構築をめざします。

平成30年(2018)年の人口目標を8万人とします。
将来的に「10万人都市」をめざします。



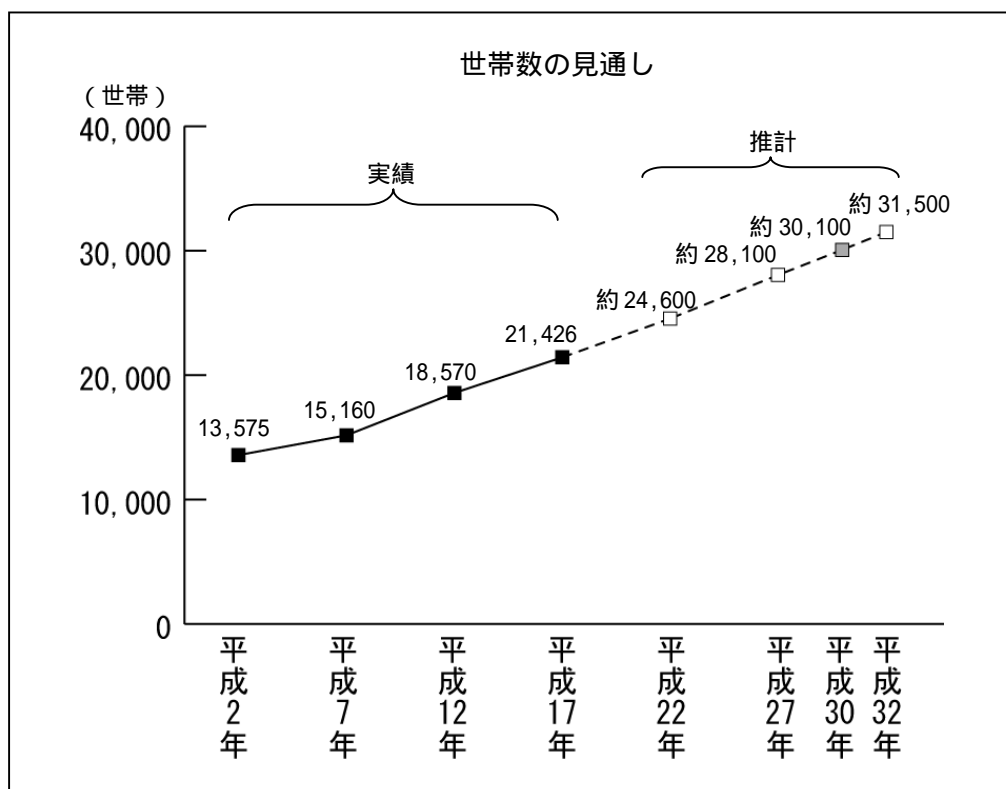
年齢 3 区分別人口構成比は、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）の比率が低下することが予想されていますが、老年人口（65 歳以上）の構成比は高まる見通しで、平成 17 年の 16.0%から平成 27 年には 23.7%、目標年次である平成 30 年には、25.2%になると予測されます。^{注 3}



世帯数の見通し

世帯数は人口の伸び率を上回る伸びを示しており、このままの傾向が続くとすると、目標年次である平成30年には3万世帯を超える見通しです。

これに伴い、1世帯あたり人員は平成17年の2.97人から平成30年には約2.5人まで減少する見通しで、単身世帯の増加や多世代世帯の減少などが進むと予測されます。^{注4}



1世帯あたり人員の見通し

(単位: 人)

平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年	平成32年
3.65	3.46	3.17	2.97	約2.8	約2.6	約2.5	約2.4

注1 社会移動する勢型人口推計とは、経年的な増減の傾向を将来に延長して将来人口を推計するコーホート法のひとつで、人口の社会移動による各コーホート(男女別・5歳階級別の人口のまとまり)の推移率を将来とも同じと仮定した将来人口推計。出生数は、出産年齢の女性人口の各5歳コーホート(15歳~50歳)に合計特殊出生率(地域補正を行ったもの)を乗じて求める。直線又は曲線回帰式による推計方法と異なり、人口の年齢構造や社会動態を反映した推計となる。

注2~4 平成27年から32年にかけては毎年均等に变化していくものとして算出。

3 まちづくりの基本方針

木津川市の将来像「水・緑・歴史が薫る文化創造都市 ～ひとが耀き ともに創る 豊かな未来～」を実現するために取り組むまちづくりの基本方針を以下のとおり定めます。

(1) 個性を活かした魅力ある地域文化の創造

木津川市は、豊かな自然に恵まれ、古代より奈良・京都の都と関わりの深い地域として発展してきました。また、近年は、関西文化学術研究都市などの建設により、新しいまちづくりが進んでいます。

木津川市の発展の原点である豊かな自然と調和した歴史・文化は、市民の貴重な共有財産であるという共通認識を持ち、これらを保全・継承・活用するとともに、地域の自然・歴史・文化と関西文化学術研究都市から発信される先端的な文化学術研究の成果を産学官民の連携により融合し、新たな地域文化が創造される取り組みを推進します。

(2) 地域力を活かした産業・事業の創造

木津川市では、国際的な学術研究と産業・文化・生活が調和する「知の創造都市」の形成をめざした都市の形成・発展のため、関西文化学術研究都市における研究所・企業等のさらなる集積を図り、知の集積の推進活用をはじめとして、産業機能の導入・土地利用を推進し、産学官民の連携などにより、世界に開かれた関西文化学術研究都市の実現、魅力的なまちづくりに向けた都市運営を図ります。

また、地元で生産される京野菜等の農産物のブランド力の強化、地産地消*・食の安全に対する関心の高まりに対応するための農業振興をはじめ、伝統産業など既存の商工業の支援・振興を図ります。

木津川市の豊かな歴史・文化・自然等の地域資源の魅力について、情報発信を積極的に行い、地域資源や地域産業を活用した観光施策を推進します。

(3) 誰もが安心して暮らせる福祉都市の創造

安心・安全のまちづくりを実現するため、自然災害等に対する防災対策の充実や地域の防犯・危機管理体制の充実をはじめ快適な生活環境を提供するまちづくりを促進します。

また、すべての市民が健康で安心して暮らせることのできる地域社会を実現するため、一人ひとりに最も適する保健・医療・福祉サービスを提供する仕組みづくりの構築を図ります。

さらに、木津川市の市民が互いに支えあい健康でともに暮らすことができるよう、健康予防や地域福祉体制の充実・確立と高齢者、障害者等の就労や生きがい対策の充実を図り、心にやさしいまちづくりを推進します。

(4) 豊かな心を育む教育・文化の創造

豊かな心を育む教育・文化を創造するためには、安心して子どもを産み育てられる環境づくりが欠かせません。総合的な少子化対策・子育て支援を進めるとともに子どもの安心・安全を確保し、子どもの笑顔があふれるまちづくりを推進します。

また、関西文化学術研究都市に立地する施設を活用し、科学、ものづくり、就業に対する興味を広げるとともに、地域の歴史・文化・伝統など郷土を大切に作る心や森林・田畑などを通して命を育み自然を大切に作る個性豊かな教育・文化活動を推進します。

地域づくりの中心は「人づくり」であることを基本に、市民の自己実現意識の高まりなどに対応した質の高い生涯学習の推進、文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動を支援します。

(5) 連携を強め地域を支えるネットワークの創造

木津川市の一体感を高め、連携を強化するとともに、本市全体の均衡ある発展により、人と人が支え合い、ふれ合うことが出来るコミュニティを形成するため、道路・交通ネットワークの整備・充実をはじめ、地域の自然・歴史・文化を活用した水・緑・歴史のネットワークの整備を図ります。

また、無秩序な開発を抑制し、都市環境と自然・田園環境のバランスがとれた土地利用を進め、ゆとりある快適なまちづくりを進めます。

本庁舎周辺を中心都市拠点とし、各コミュニティエリアの都市拠点・支所と

の役割分担に基づき、市民サービスの向上に努めるとともに各地域が互いに連携したまちづくりを推進します。

(6) 環境と調和した持続可能なまちの創造

私たちは、豊かな自然から、水・空気・食材など多くの恵みを受けています。

その一方で、便利で快適な生活様式が環境汚染や地球温暖化の原因となっており、その対策が求められています。将来にわたり、木津川市の恵まれた自然と暮らしやすい生活環境の中で、豊かな暮らしを実現するとともに、健全な環境が地球規模にわたり保全・継承されるよう、自然の豊かさや多様な価値を再認識し、資源循環型社会の実現をめざします。

このため、省資源・省エネルギーの推進、自然エネルギー^{*}の活用、環境に配慮した交通施策などを推進し、環境負荷の少ない低炭素社会^{*}の実現に向けたまちづくりを進めます。

また、市民と行政が連携し、地球温暖化防止、ゴミをできるだけ発生させない生活様式、資源の循環利用、廃棄物の適正処理などを推進します。

(7) まちづくりへの参画と協働の創造

近年の社会情勢の著しい変化等により、市民の価値観が多様化するとともに、地域が抱える様々な課題や要求も複雑・多様・高度になっています。

このような状況の下、様々な個性や属性をもった市民により構成される社会において、性別、障害のあるなし、国籍等に関わらず、すべての人が生きがいを持ち、一人ひとりの人権が尊重され、平和でともに生きるまちづくりを進めます。

この複雑化・多様化・高度化する地域課題やニーズに対して、NPO・ボランティア^{*}等による活動が活発になり、地域活動等を通じた市民のまちづくりへの参加意識も高まっています。

市民、地域、事業者、NPO、ボランティア等と行政が連携・協働してともに歩むための戦略的な行政経営システムの確立と財政基盤の強化・充実を進め、地方分権型社会に対応した責任ある政策形成の実現に努めます。

また、国・京都府をはじめ、木津川市民・経済活動に係る市町村・関係機関との広域的な連携を図り、健全で質の高いまちづくりを進めます。

4 まちづくりの重点戦略

まちづくりの重点戦略は、「まちづくりの基本方針」に基づくまちづくりを進めるうえで、特に戦略的、横断的に取り組むことによって大きな成果が期待され、さらには他の施策をけん引して総合計画全体の着実な推進を先導するための施策と、その実施に際しての市民と行政の協働の方向と役割をとりまとめたものです。

また、基本計画において、まちづくりの重点戦略に対する各種事務事業を実施することによる市民満足度を成果指標として数値化し、事務事業の有効性の検証等に活用します。

まちづくりの重点戦略の設定にあたっての視点

視点 一体的なまちづくり

木津川市は、木津町・加茂町・山城町が合併し、誕生した若々しいまちです。

これから、さらに飛躍するための取り組みが必要です。今後、あらゆる機会を通じて、市の一体性を高め、市民とともに一体感の醸成を図ることを重視したまちづくりを進めます。

視点 個性ある魅力的なまちづくり

木津川市は、木津川の流れとやさしい山並みに象徴される素晴らしい自然、田園環境、歴史・文化等が息づくとともに、世界に誇る研究機能が集積する関西文化学術研究都市を擁する都市的環境を備えたまちです。

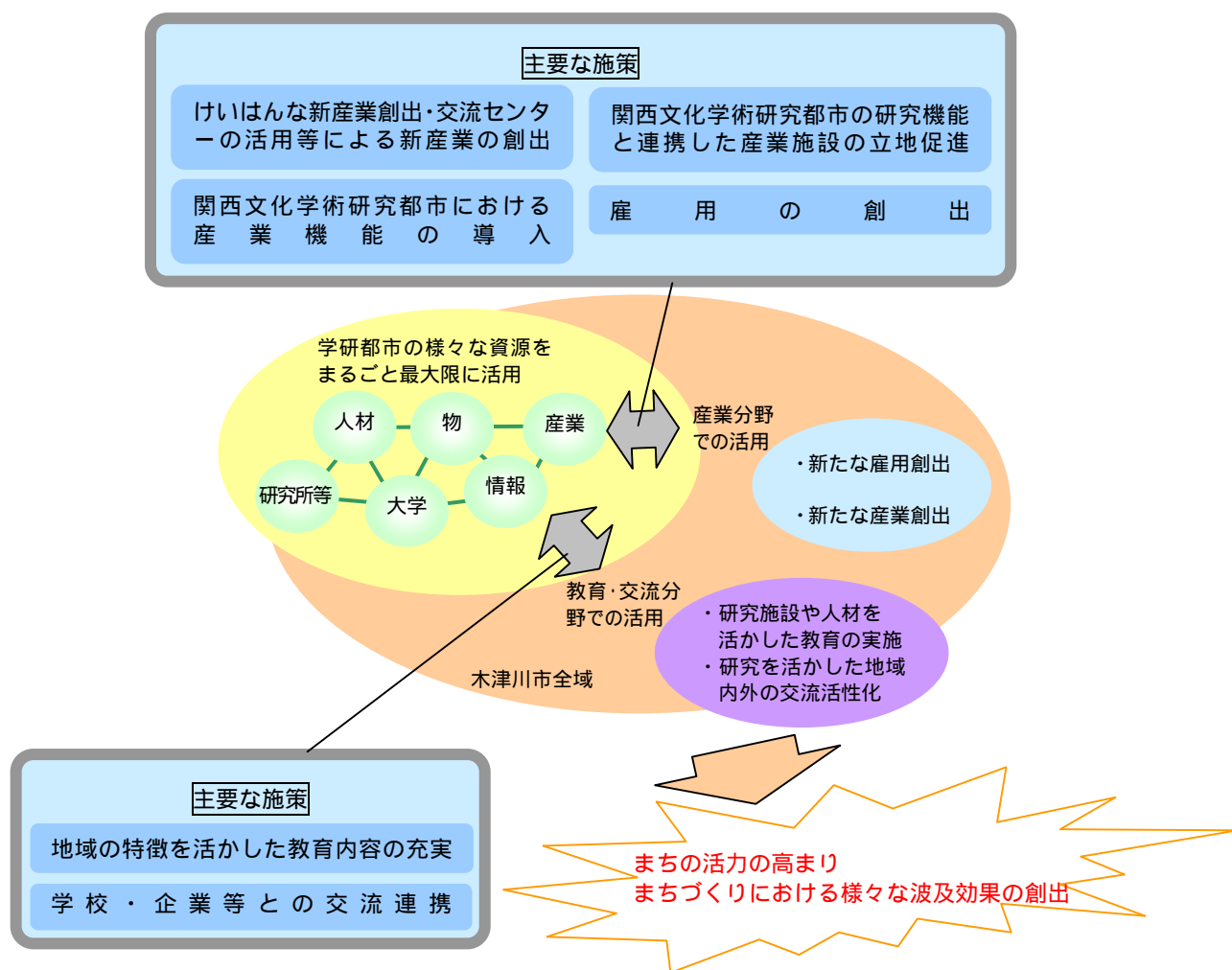
私たちは、それぞれの地域で先人が築き育ててきた豊かな魅力を融合させ、一層磨きをかけて、他に例のない、木津川市として個性ある魅力的なまちづくりを進めます。

(1) 関西文化学術研究都市まるごと活用戦略

戦略のねらい

自治体間競争の時代においては、地域の活力を高めていく取り組みが不可欠です。世界最先端の研究施設等が立地する関西文化学術研究都市に集積する人、物、産業、情報等を、まるごと最大限に活用しながら、まちの活力を高めるとともに、まちづくりにおける様々な分野で波及効果を生み出します。

戦略のイメージ



本戦略における市民と行政の協働の方向と主な役割

協働の方向	市民(特に研究所・企業)の主な役割	行政の主な役割
学研資源を産業分野で活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・学研施設・研究所等と連携した産業・事業の創出の取り組みに努めます。 ・研究成果の実証実験・イベントに積極的に参加します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地のための基盤づくりや、新たな産業・事業の創出を支援します。 ・研究成果の実証実験・イベントの場の提供や情報発信に努めます。
学研資源を教育・交流分野で活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な学習・文化活動における研究施設や人材の積極的な活用に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と学研施設・研究所等との交流の場づくりや情報提供に努めます。

(2) 木津川市文化創造戦略

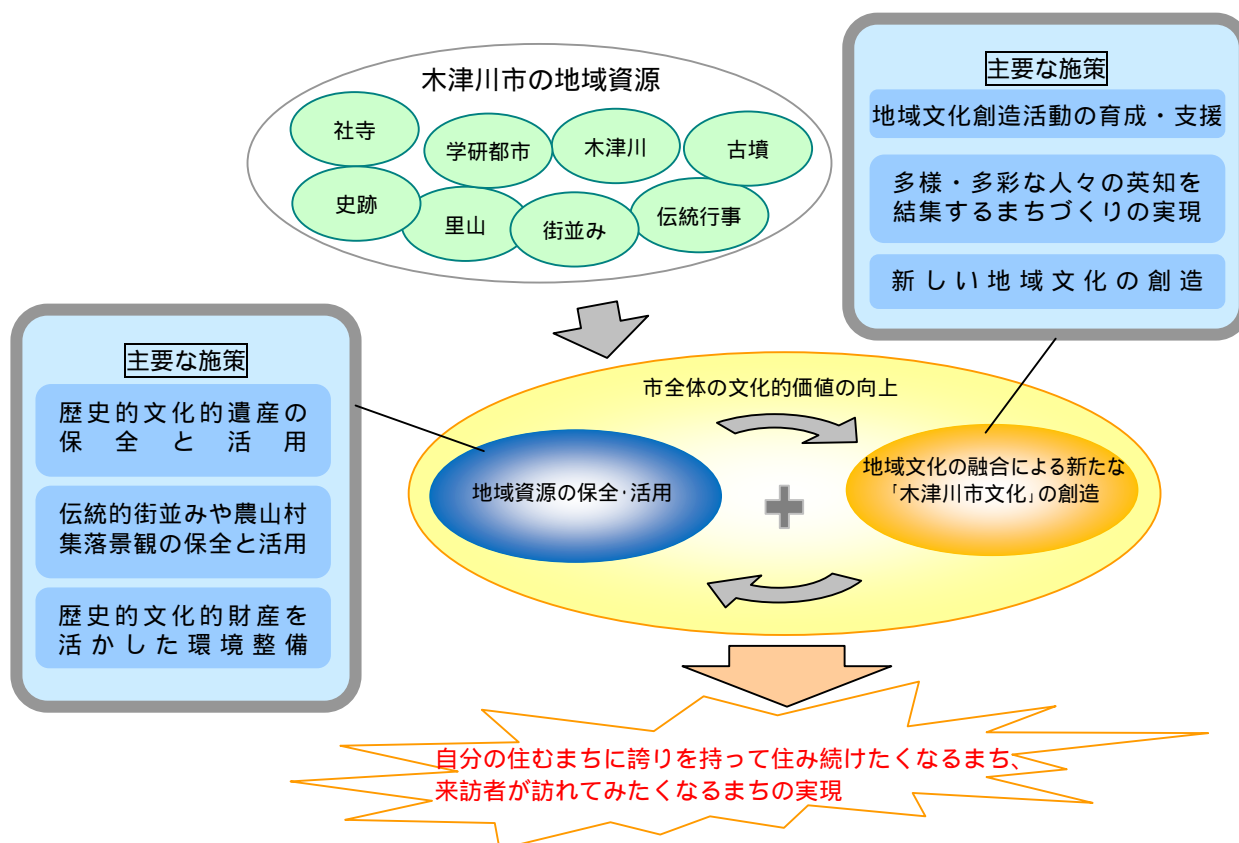
戦略のねらい

木津川市は、豊かな自然や自然と調和した歴史・文化、関西文化学術研究都市など文化的価値の高い資源が豊富であり、様々な文化がまち全体に息づいています。

この豊かな文化的価値は、木津川市の価値を更に高めることにつながるものです。

これらの地域文化の融合により、新たな「木津川市文化」の創造活動に取り組むことで、まちの価値をさらに高め、自分の住むまちに誇りを持って住み続けたいくなるまち、来訪者が訪れてみたいくなるまちをめざします。

戦略のイメージ



本戦略における市民と行政の協働の方向と主な役割

協働の方向	市民の主な役割	行政の主な役割
地域資源を保全・活用する	・地域資源に関する学習会等の実施、参加に努めます。	・地域資源の調査・記録収集・保存と積極的な公開と活用を図ります。
地域文化の融合による新たな「木津川市文化」を創造する	・地域文化を大切にしたい気持ちを持ち、自主的な文化活動の創出と推進に努めます。	・市民による文化創造活動への支援や市民の文化活動の交流などのコーディネートを図ります。

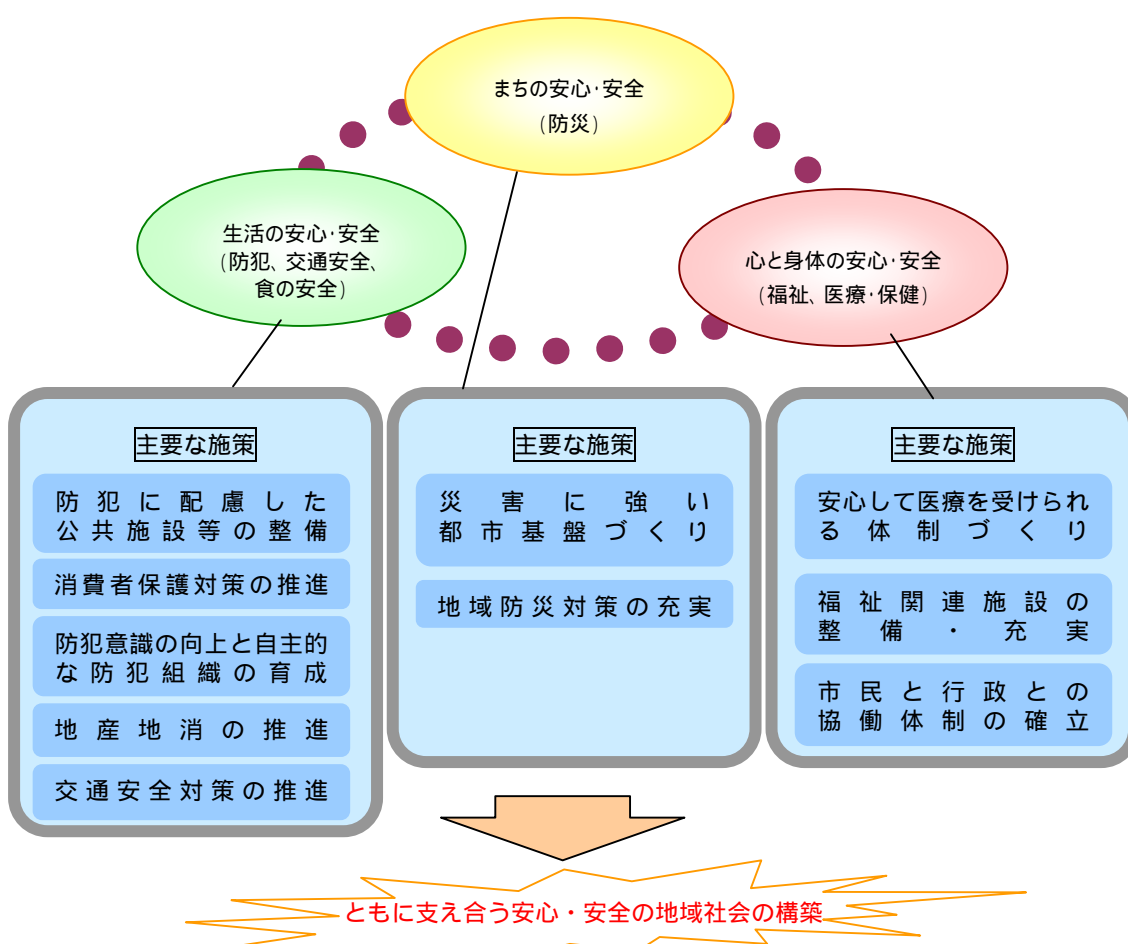
(3) 安心・安全のくらし実現戦略

戦略のねらい

すべての市民が健康で心豊かな生活を送るには、生活環境などの基本的な住み良さが実感できることが必要です。特に、安全で安心して暮らせる生活環境や食の安全に対する要望が高まっています。

これらを踏まえ、暮らしの安心・安全に関わる仕組みづくり、施設整備に取り組み、ともに支え合う地域社会の構築をめざします。

戦略のイメージ



本戦略における市民と行政の協働の方向と主な役割

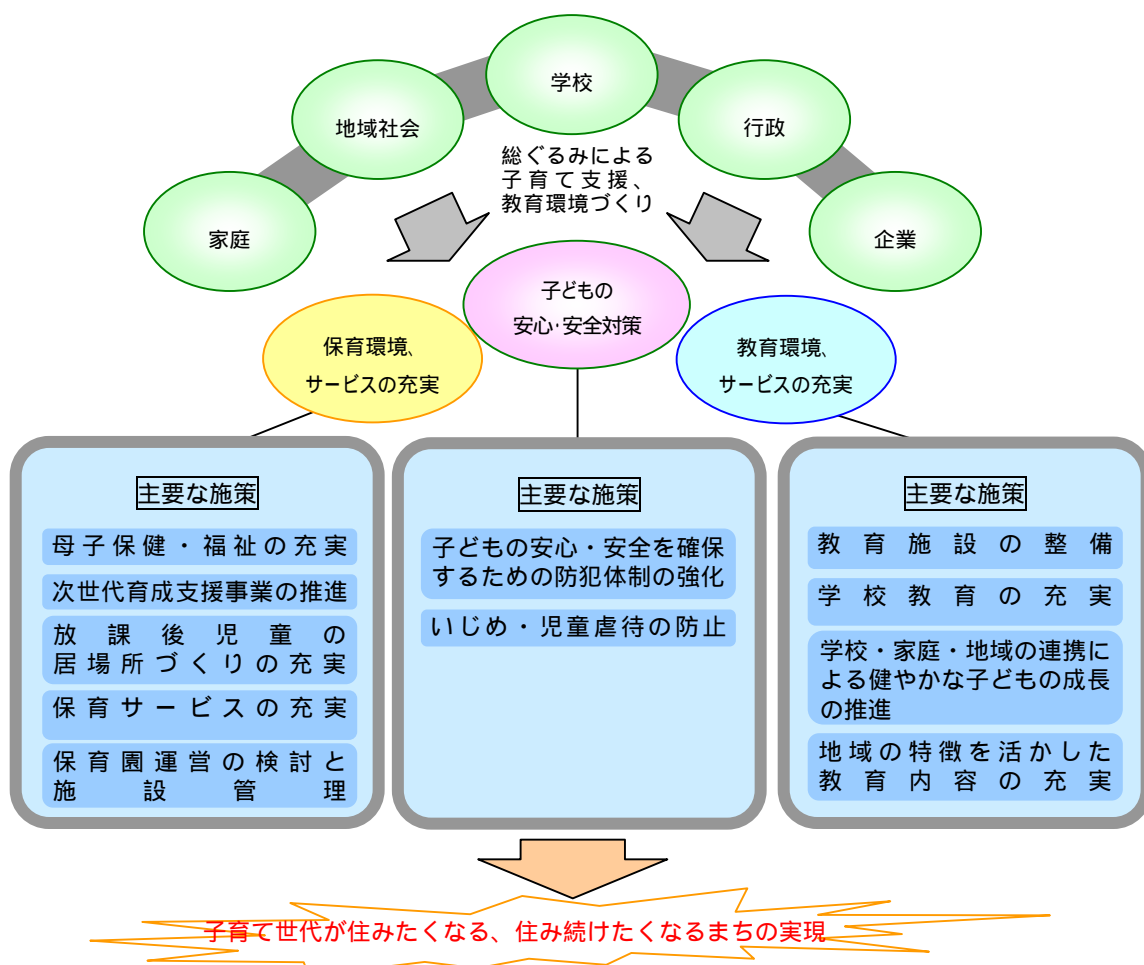
協働の方向	市民の主な役割	行政の主な役割
まちな安心・安全を守る	・災害発生時における様々な問題を想定し、日ごろから備えるように、自主防災組織による防災活動等に努めます。	・防災のための資材の整備、防災訓練、災害時の要配慮者の把握を進めます。 ・災害に強い都市基盤づくりを進めます。
生活の安心・安全を守る	・地域での防犯や交通安全等をテーマにした見守り活動等の参加に努めます。	・防犯、交通安全、食の安全に対する市民意識の啓発や取り組みの促進・支援を進めます。
心と身体の安心・安全を守る	・健康づくりや身近な地域での福祉活動の参加に努めます。	・地域での保健福祉活動に対する支援や社会参加を支援します。

(4) まちぐるみの子育て・教育環境づくり戦略

戦略のねらい

木津川市には、温かい人と人とのつながりや豊かな自然、歴史・文化など子どもたちの心と体を豊かに育む財産がたくさんあります。これらを活かしながら、家庭、学校、地域社会、企業、行政等が連携しながら総ぐるみで子育て支援や教育環境づくりに取り組み、子育て世代が住みたくなる・住み続けたくなるまちをめざします。

戦略のイメージ



本戦略における市民と行政の協働の方向と主な役割

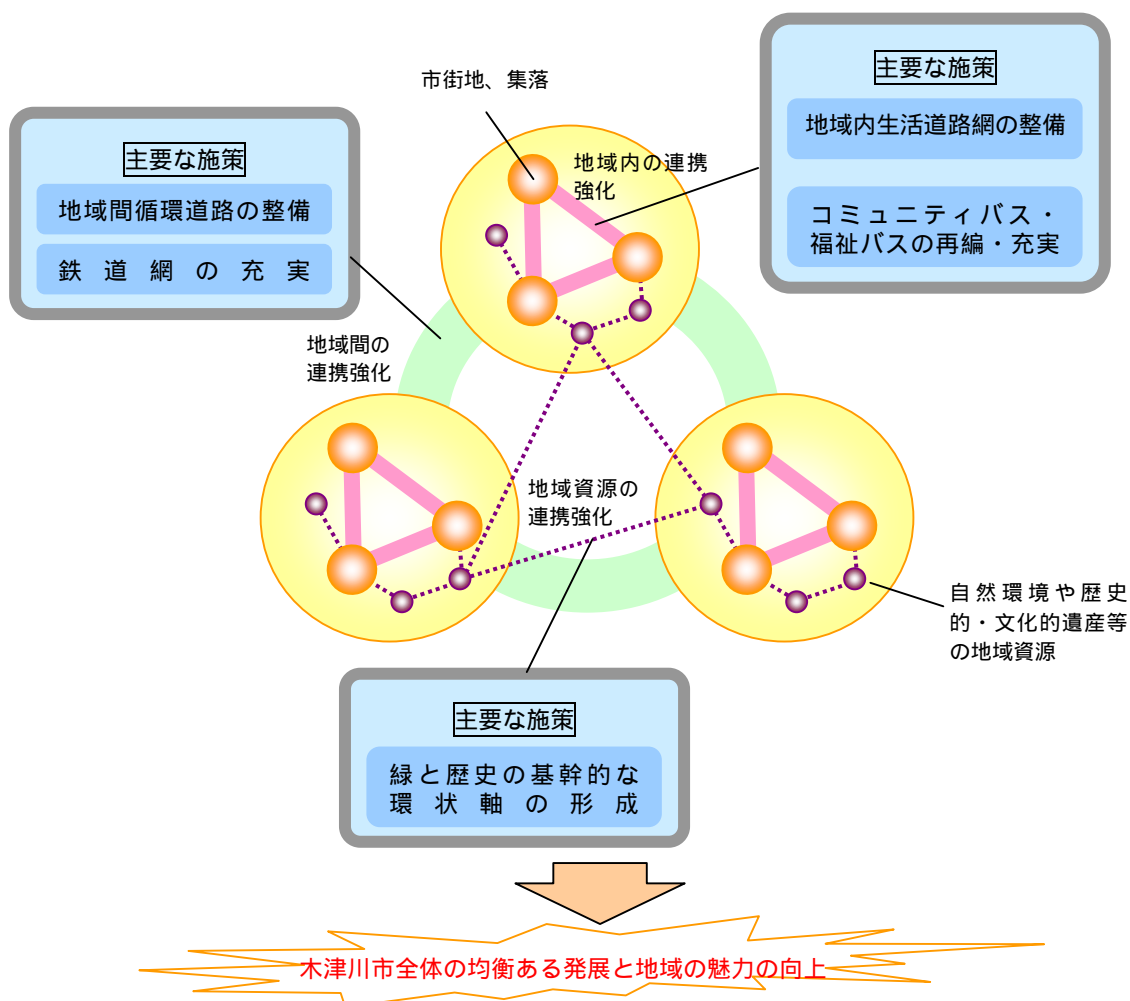
協働の方向	市民の主な役割	行政の主な役割
笑顔があふれる子どもが育つ社会づくりを進める	・家庭、地域、学校等の連携を進め、地域ぐるみで子どもに目を配ります。	・家庭、地域、学校等との協働による仕組みづくりを進めます。
子どもの安心・安全対策を進める	・子どもへの声かけ運動や見守り活動の実施に努めます。	・子どもの安心・安全にかかる意識啓発を進めます。
教育施設・サービスを充実する	・地域での子どもとのふれ合いの機会づくりに努めます。	・教育施設・サービスにかかる基盤づくりを展開します。

(5) 地域間連携強化戦略

戦略のねらい

地域間の移動の円滑化を図り、交通利便性の高い都市をめざします。一つのまちとしての一体感、地域間連携を強化するとともに、木津川市全体の均衡ある発展の基礎を築きます。また、様々な地域資源のネットワーク化により、地域全体としての魅力向上を図ります。

戦略のイメージ



本戦略における市民と行政の協働の方向と主な役割

協働の方向	市民の主な役割	行政の主な役割
地域間の連携を強化する	・道路基盤づくりの協力を努めます。	・道路基盤づくりを進めます。
地域内の連携を強化する	・コミュニティバス・福祉バス*の積極的な利用に努めます。	・コミュニティバス・福祉バスの再編・改善や利用増進に努めます。
地域資源の連携を強化する	・地域資源の活用を進める NPO・ボランティア活動への積極的な参加に努めます。	・観光など地域の活性化・再生に向けた方策を推進します。

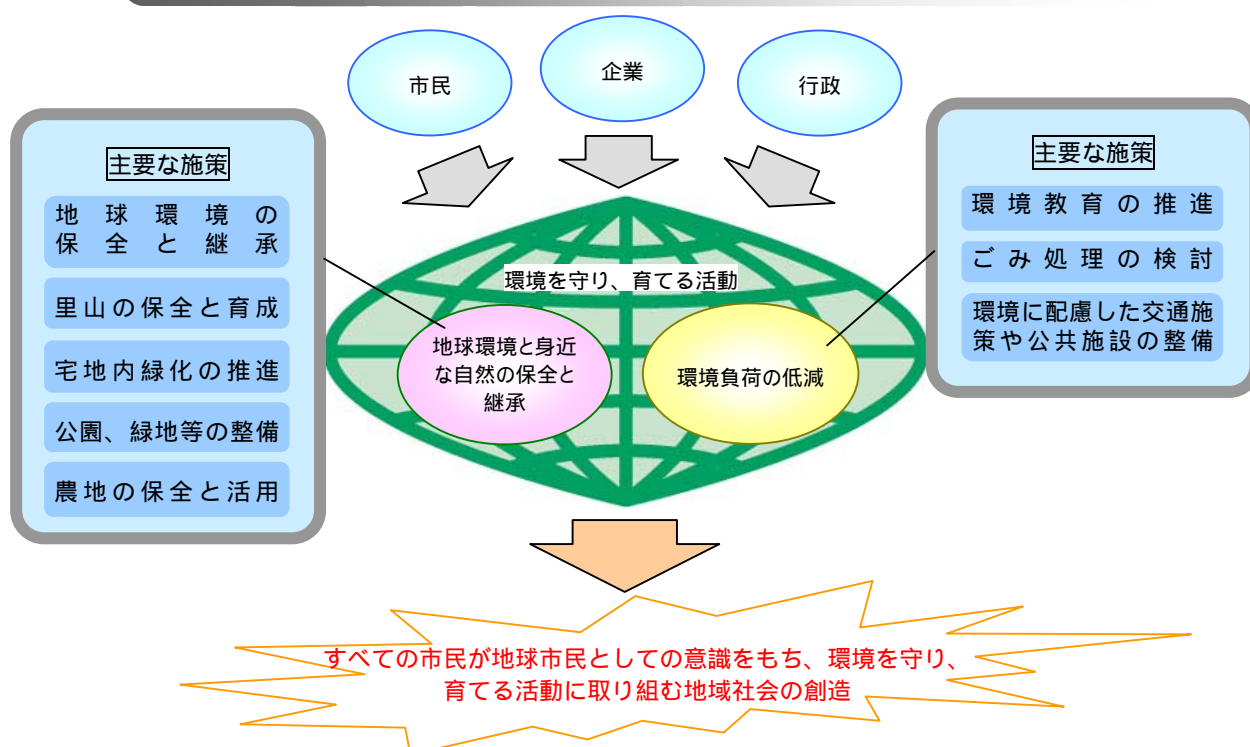
(6) 環境保全・地球市民育成戦略

戦略のねらい

地球環境問題に対する意識が高まり、環境保全に関する市民活動が広がっています。環境問題は、特に市民や企業、団体などが連携するとともにそれぞれの役割を担う取り組みが必要です。木津川や山の緑など豊かな自然環境を有する木津川市において、自然環境保全は重要な課題であることから、すべての市民が地球市民としての意識を持ち、環境を守り・育てる活動に取り組む地域社会を創造します。

また、環境対策はすべての施策において共通する視点として意識し、横断的な取り組みを推進します。

戦略のイメージ



本戦略における市民と行政の協働の方向と主な役割

協働の方向	市民の主な役割	行政の主な役割
地球環境と身近な自然を保全・継承する	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関・自転車の利用やアイドリングストップや新エネルギー[*]の導入に努めます。 地域の環境美化活動への参加や環境保全に対する意識高揚に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 庁舎の省エネルギーなどに対する取り組みや低炭素社会に向けた啓発活動を進めます。 市民の環境美化活動への支援と意識啓発を進めます。
環境負荷を低減する	<ul style="list-style-type: none"> ごみの分別回収、ごみの減量化への協力に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 庁舎等から出されるごみの分別、ごみの減量を進めます。 環境負荷低減に関する意識啓発を進めます。

5 行政経営の方針

(1) 地域経営の展開

【地域経営の方向性】

地方分権の進展に伴い、地方自治体には、自らの責任と判断で、多様化・複雑化する市民のニーズに対応することが求められています。

三位一体改革による税源移譲などにより、財政的にも地方自治体の自立性が求められており、市民の受益と負担の関係をより明確にし、自主的・自立的に地域経営を展開することが必要となります。

このような社会経済情勢の下、市民に最も身近な行政主体である地方自治体を中心となり、地域の個性を最大限に活かし、活力に満ちたまちとなるよう、地方分権型システムの構築を進める必要があります。

一方、ボランティア活動、NPO活動などが活発化し、公共的サービスの提供に関して、市民自らが担う役割が拡大してきています。

木津川市は、地域社会を構成する豊かな人材や、優れた研究所・企業に恵まれています。こうした力を結集しながら、豊かな地域社会をつくりあげていく地域経営の展開を図ります。

また、国・京都府・近隣市町村との連携を図り、魅了あるまちづくりを進めます。

【公共の領域の変化】～「新たな公」の活動領域と「行政と市民の役割」～ 「新たな公」の活動領域

社会経済情勢の変化に伴い、子育てや介護のように以前は私的活動であったものが公共的サービスに変わるなど、公の領域が拡大してきています。

また、これまで行政が担ってきた防犯・防災や環境問題などの公の活動領域として取り組んできたものが、NPOなどの市民組織により、その強みである先駆性・自由性を活かして、積極的・創造的な活動が展開され、きめ細やかなサービスが提供される事例が多くなってきています。

このように、これまで公共サービスは行政により提供され、公の活動領域と行政が提供するサービスの範囲は概ね一致していましたが、社会経済情勢や市民の価値観の変化などに伴い、市民が求める公共・公共的サービスが多様化・高度化することにより、「公の活動領域の拡大」と「行政が対応できる範囲の相対的縮小」により、行政だけでなく、多様な主体が互いに協働して担う「『新たな公』の活動領域」が生まれてきています。

木津川市においても、地域社会、市民生活が直面する「『新たな公』の活動領域」の課題を分析・解決し、適切にサービスを提供するため、地域社会を構成するあらゆる主体が、まちづくりの将来像や目標を共有し、役割分担をしながら協働による地域づくりを行うための新しい地域経営の展開が必要です。

行政と市民の関係と役割

・行政と市民の関係

これからの地域経営においては、この「『新たな公』の活動領域」を豊かにすることが重要です。このためには、従来の行政から市民への一方向的なサービス提供の形態から、行政と市民とのやり取りを双方向にし、地域における様々な多元的な主体がそれぞれの立場でともに協働して、「『新たな公』の活動領域」を形成する仕組みづくりが必要です。

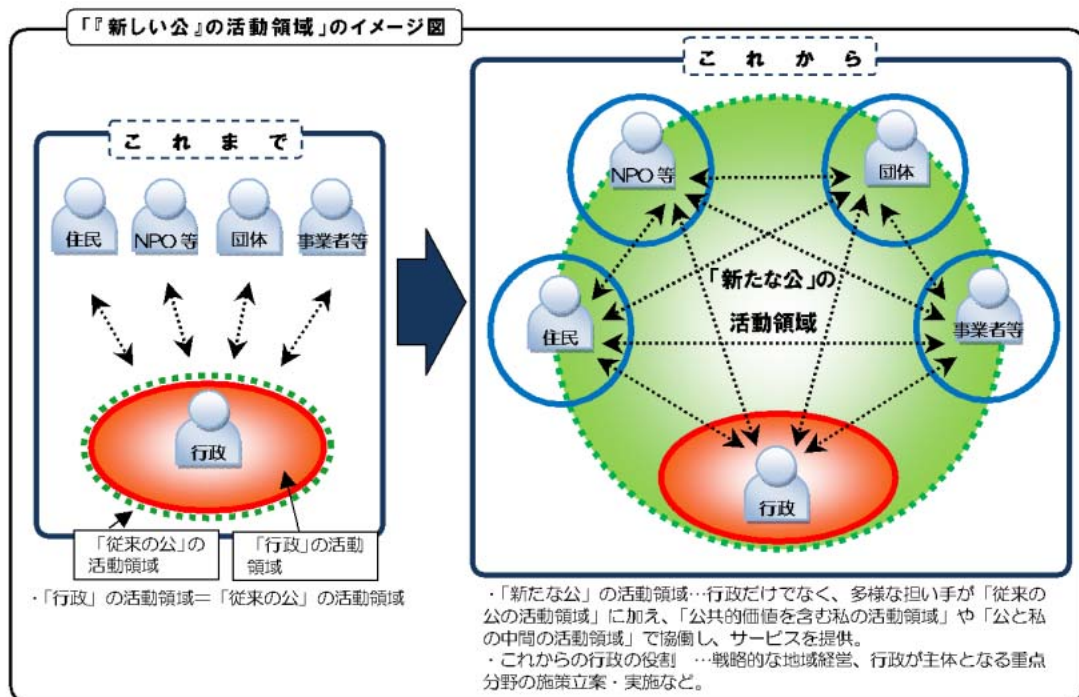
・行政の役割

この「『新たな公』の活動領域」に対応するため、行政は、「『新たな公』の活動領域」をともに担う可能性のある様々な主体を把握するとともに、情報共有と信頼関係の構築を図り、それらの主体の育成・支援や特性を活かした連携を進め、木津川市域における公共・公共的サービスの供給形態の多様化と供給能力の向上を図ります。

また、行政には、木津川市の速やかな一体性を確保するための施策をはじめ、戦略的な地域経営のための企画立案や条例制定など、行政が主体的に取り組むべき領域に重点的に対応することが、今まで以上に求められています。

・市民の役割

日常生活圏域の拡大や生活様式の変化などにより、近年、市民の連帯感が薄れてきていることが指摘されています。このため、地域の課題を市民がお互いに協力しあい解決する「地域力」を再生し、地域に存在する様々な主体の活力を結集することにより、地域全体の力を向上させることが求められています。



(2) 行財政改革の推進

これまでの行財政改革は、財政支出を削減する手段としての意義が強調された「減量改革」を目的に取り組んできました。木津川市では、厳しい財政状況の下、常にコスト意識を持ち、自主財源の確保と経費の縮減対策を進め、財政基盤の確立を図ることはもちろんのこと、総合計画に基づき、市民生活の安定と向上をめざし、持続可能で自律したまちづくりを進めるため、あらゆる行政分野にわたり、その体制・体質を改める「構造改革」に視点を置いた行財政改革を進めます。

また、施策の企画立案に際しては、地方分権の進展の中で限られた大切な財源を「選択と集中」、「施策の重点化」により、人・物・情報・資金等といった経営資源を効果的に活用していきます。

加えて、PDCA サイクル*による進行管理の考え方を導入し、地域経営の質の向上を図ります。

このため、成果指標の設定などにより施策の評価を行い、本計画と「木津川市行財政改革大綱」が一体的となり、新たなマネジメントシステム*を構築し、時代に応じた効率的・効果的で市民にわかりやすく透明性の高い地域経営を展開します。

